

企画展

「自然と生きる ～水・竹・ワラ・石～」

令和2年1月3日(金)～3月29日(日)

と関連講座などのご案内

郷土資料館 (楽寿園内) ☎ 971・8228

※①～④すべて参加無料です。

―かつて三島に暮らした人々が、
水や竹、ワラ、石といった身近な自然・素材をいかに上手に
生活の中へと取り込んでいたのか紹介します。



① 展示解説

とき 2月1日(土)、3月7日(土)

①午前11時から②午後1時30分から (各30分程度)

ところ 1階企画展示室 (申込み不要。直接会場へ)

内容 学芸員による展示解説

② 箱根竹でハタキづくりに挑戦!

とき 2月8日(土)午前10時～正午

ところ 1階多目的室

定員 先着15人

申込み 1月4日(土)から電話受付開始



▲「③博物館講座」講師は、明治大学黒耀石研究センター客員研究員の池谷信之さん

③ 富士・沼津・三島3市博物館講座

「狩りに生きた箱根・愛鷹の人々」

とき 2月11日(火・祝)午後2時～4時(午後1時45分開場)

ところ 生涯学習センター 3階多目的ホール

内容 箱根・愛鷹の旧石器・縄文時代の人々が、どのように狩猟具の材料を入手し使ったのか、お話しいただきます。

講師 池谷信之さん(明治大学黒耀石研究センター客員研究員)

定員 先着70人

申込み 1月22日(水)から電話受付開始



▲子どもも楽しめる「④郷土教室」をチェック!

④ 郷土教室 (体験講座) ※申込み不要

とき	ところ	内容
2月1日(土)	郷土資料館	型染め体験:伝統的な技法を使ったカード作り
2月23日(日・祝)		遊んで学ぼう富士山デー:富士山の溶岩観察、富士山にちなんだカルタ遊び
3月7日(土)		江戸時代の三島宿:江戸時代のペーパークラフト「立版古」作り、展示ガイド



郷土資料館
イベント情報

郷土資料館からのお知らせ

◆開館時間:午前9時～午後4時30分(楽寿園入園は午後4時まで)

◆月曜休館(祝日の場合は翌平日)

◆入館無料(楽寿園入園料が必要)

歴史の小箱

No.380

地域の歴史「多呂」

今回は中郷地区のうち多呂と、その地名の由来となった多呂氏とその屋敷があったとされる祇園山を紹介します。

多呂の集落は、大場川の左岸、箱根山西麓に位置します。かつてこの地域は大場川の水害の常襲地帯でした。そのため、神明神社は寛文九年（一六六九）に川のそばの平坦地から現在の多呂東山山上へと遷座しています。また、通称「亥の満水」とよばれる寛文十一年（一六七二）の大洪水が起こったことを契機に、集落も平坦地から神明神社そばの山裾へと移住したといわれています。

多呂の地名は南北朝時代から戦国時代にかけて、多呂郷・田呂郷・多留郷・榎之郷として諸資料にみられるようになります。約二百年前の地誌「豆州志稿」によると「此村ハ奉幣使在庁居リシ処、在庁ハ

多呂氏ナリ、遂ニ村名トナル、今在庁ノ屋敷アリ」とあり、「多呂氏」が居住したことから、多呂氏の名を村名とするようになったとされています。それ以前は大場、北沢と共に佐婆郷（沢の郷）と呼ばれていたようです。多呂氏は江戸時代まで在庁の役を勤めました。ここでいう「在庁」とは、伝承によると源頼朝が定めた奉幣使であったといわれています。

多呂氏の屋敷は集落の北側で、北沢との境にあたる伊豆箱根鉄道駿豆線東側、箱根山西麓から伸びる丘陵の先端部にある「祇園山」にあったといわれています。「三島市遺跡地図」には中世の城館跡である「多呂館」として登録されていますが、発掘調査は行われていないため、詳しいことはわかっていません。また、「豆州志稿」古蹟部

によれば、「在庁多呂氏歴世居住の地」として多呂の祇園山を載せたのち、「在庁職」は谷田村御門、安久村多呂、中島村城之内に移転したと記されています。安久には「多呂村」という小字があり、安久の近世の村絵

図に在庁屋敷跡と思われるものが記載されていることから（安久杉山家文書）、村絵図作成時には多呂氏は安久に移動していたと考えられます。

この祇園山は現在、墓地となつています。江戸時代まで多呂の人々は田種寺の檀家でしたが、廃仏毀釈の気運が高まり、明治四年に北沢と共に全村あげて神道に宗旨替えしました。以降、祇園山に共同墓地を設け、神葬祭を行っています。当時の多呂の地主太原真平は、村人のために所有地である祇園山を墓地用地として寄贈しました。昭和四十二年十月、墓地入口に太原真平翁の功德碑が区民の手により建てられ、現在多呂公民館横にあります。



▲現在墓地となっている祇園山（北沢より撮影）

わたしのおばあちゃん

当番 ひろせ あいりさん

私のおばあちゃんは、昔スポーツをやっていたこともあり、スポーツ観戦をするのが大好きです。テレビを見ている時も夢中になると、とても大きな声を出して応援をしています。私はバレーをやっていますが、試合があった時にはいつも、どうだったのか、サーブは入ったのかといういろいろなことを心配して聞いてくれます。

私のことを大切に思ってくれるそんなおばあちゃんが大好きです。これから長生きをして、ずっと応援をして欲しいです。



廣瀬 秋江 (83才)
廣瀬 愛理 (中郷小6年)